

H.30
(2018年)

三月 (今月の揭示板)

真宗大谷派・願成寺

病気で苦悩したから、健康が幸せと思うのです

自分を中心に好き嫌い・善悪など、人間の持つ知恵で分けるのを仏教では『分別心』と言います。彼奴は悪い。これはダメなどと、自分の都合≡分別心の鉄で切り続ける(善人と思っっている)私です。人間は、自分を中心に上げ(自慢し)たり・下げ(卑下し)たりします。正信偈に『邪見(邪見)を、人と比べ・勝った負けたと喜んだり悲しんだり(傲慢)する悪衆生≡自己中心の我に囚われた考え方せず、煩惱(欲望)に塗れた愚かな人間』とあります。親鸞聖人は、自力で頑張っても駄目と絶望され、法然上人に『人間は他力(阿弥陀仏の本願)に包まれていて、お念仏で救われる』と教わりました。酸素・雨水・日光などの自然の恵み(他力)により、自分の力(自力)が出せるのです。『南無(すみません)』と頭が下がり・阿弥陀仏を拝み・報恩感謝し、『生かされて生きている私』に目覚める時、心が安らぎ・生きる喜びを感じるのです。

主な参考資料

「大谷婦人会」

- (1)川端裕敬(著)『念仏相続』月刊『花すみれ』2018年2月号、P.2〜7、真宗大谷派。
- (2)三浦裕真(著)『選ぶ心』月刊『花すみれ』2018年2月号、P.16〜20、大谷婦人会。
- (3)川村妙慶(著)『人生が変わる親鸞のことば』講談社、P.1〜21(2016年)。